Intertek Certification Japan Limited

Intertek News

Intertek
Valued Quality. Delivered.

ISO関連季刊情報誌（年4回発行）

Vol.50（2015年10月発行）

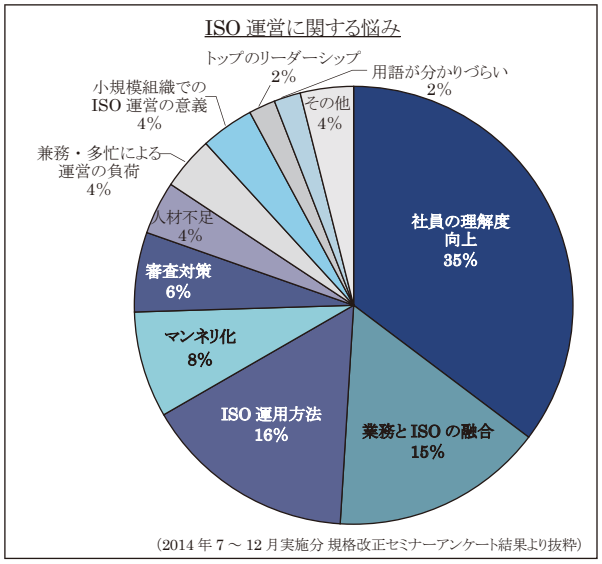
ISO9001:2015/14001:2015 発行に伴うお客様向け研修について

研修部

本誌発行時にはISO9001:2015及びISO14001:2015の国際規格（IS）が発行されているはずです。既にご存知の方も多いかと存じますが、今回の改訂では規格条項が共通化され、各マネジメントシステム規格が同じ構造を持つように変更されました。

弊社では、一昨年CD1（委員会原案）の段階より、今回の大改訂に向けた規格構造の解説や、実践的に理解を深めていただくための演習を含むセミナーを継続的に各地で開催してまいりました。その際に集計したアンケートより「ISOに関する悩み・不安について」の設問で、社内理解度向上やISO運用に関する回答が大多数を占めており、お客様のお悩みを実感いたしました。（下表参照）このようなアンケート結果に鑑みて、お客様の問題解決に繋がるヒントを提供できる場として実現したセミナーの一例が、昨年より実施している「ISO9001運用向上のためのプロセスアプローチセミナー」です。これはISO9001におけるプロセスを理解し、よりスムーズな運用実現のためのノウハウを、演習を通じて学んでいただけるよう構成しております。このように、引き続きお客様の声を真摯に受け止め、実践的にISO運用に役立つ研修を計画してまいりたく、お気づきのことなどございましたらお気軽にご相談いただけましたら幸いです。

なお、JIS規格発行後、年明けからはISO9001:2015及びISO14001:2015の移行対応セミナーと内部監査員研修コースを正式に実施する予定で準備を進めております。開催にあたり、ご案内段階になりましたら、メールや本誌添付、また、HP掲載でご案内差し上げたく存じております。



末筆ながら、皆様の日々のご支援に感謝申し上げますとともに、今後ますますのご発展・ご健勝を心よりお祈り申し上げます。

CONTENTS

01 ISO9001:2015/14001:2015 発行に伴うお客様向け研修について
02 03 特集 ISO9001:2015年版要求事項の品質マニュアルへの実装方法
04 News & Topics
－OHSAS18001 UKAS認証が可能に
－JAB主催 関係機関向けセミナー情報
－マイナンバー制度開始とISO27001
－審査員の2015年版対応
－Q&A
05 審査の現場から
－お客様紹介
（図書印刷株式会社）
－連載よみもの
「審査員の心理」（環境編）
06 連載よみもの
－審査員リレーエッセイ
「××で1位を目指す」
（審査員　時田 正憲）
－環境とISO14001
「ウォーター・フットプリント（1）」
07 お客様からのお便り
－「創業以来、職人による手作り一筋」
（宮川製菓株式会社）
－「豊かな地域創造をめざして」
（株式会社峰山建設）
08 研修コースのご案内
－コースのご紹介／受講生からのお便り
－大阪事務所移転のお知らせ

発行 インターテック・サーティフィケーション株式会社 大阪事務所　◇本誌に関するお問い合わせは大阪事務所まで◇

ISO9001:2015年版要求事項の品質マニュアルへの実装方法（一例）

― 改訂準備に向けて ―

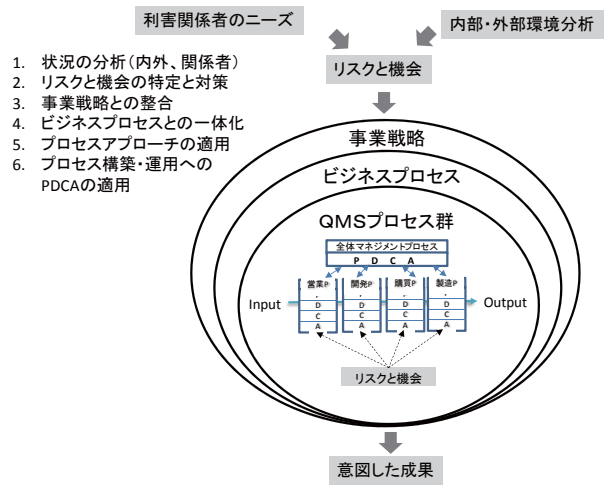
プロセスデザイン研究所　副田 武夫

2015年版ISO9001では、組織の主体的な取り組みがより求められます。今回は、どのように要求事項を品質マニュアルへ取り組んだらいいのか、その構成とプロセス記述例についてご紹介します。品質マニュアル再構築の一例としてお役立て頂ければ幸いです。（編集部）

はじめに

2015年版ISO9001では、内外環境分析を踏まえた事業戦略の明確化、リスク分析を踏まえたシステム構築、ビジネスプロセスとISOシステムとの一体化、QMSの構築・運用にあたってプロセスアプローチの適用、等が要求されています。（図1参照）これらをどのように品質マニュアルへ実装すればよいのか、その構成とプロセス記述例を紹介します。単なる品質マニュアルではなく会社の知恵を結集した会社の教科書として活用することが期待できます。

図1　QMS構築の要件

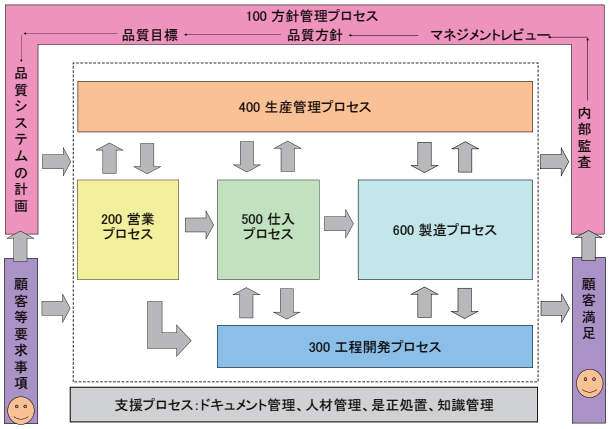


QMSプロセス体系図

QMSの構築に際しては、まず、組織の活動をいくつかのプロセスとして整理する必要があります。

図2は機械部品加工の企業を想定していますが、そのQMSは営業、工程開発、仕入、生産管理、製造の5つのバリューチェーンを構成するプロセス、及び、これらを統括する全体マネジメントの計6つのプロセスを含んでいます。マネジメントプロセスには方針・目標の設定、内部監査、マネジメントレビュー等、各プロセスを統括する活動が含まれています。

図2　QMS体系図



各プロセスをプロセスチャートとプロセス計画書のペアで記述

プロセス体系が明確にできたら、次は、各プロセスを“プロセスチャート”と“プロセス計画書”の2つのペア文書で記述します。プロセスチャート（略）にはそのプロセスに関わる当事者の活動を時系列的に記述します。プロセス計画書（図3）はPlan，Do，Check，Actの4種のブロックで記述します。

1）**Planブロック**にはプロセスのインプット・アウトプット、目標や必要な資源を明記します。

2）**Doブロック**ではプロセスチャート中の各活動に対する手順、責任者、管理項目、関連文書・記録等を現状ベースに記述します。この際、図3の最右列にあるよう

図3 プロセス計画書の例

営業プロセス計画書						4.4	
【PLAN 】 目標・資源							リスクと機会
プロセスの方針	協力会社を含めた総合力により、幅広い加工ニーズに対応し、顧客満足度の向上と受注量の安定化を図る					5.2	増産要請
プロセス目標	売上高、見積・受注率/額、納期順守率、製品毎の粗利益率/額、顧客満足度					6.2	値引き要求、価格競争
インプット	引き合い情報、過去見積もり情報、内製/外製加工能力		アウトプット	見積書、客注文、売上回収		4.4a	外注加工能力
プロセス責任者	営業課長：受注・見積書作成、工場長：技術・設備面の検討					7.1.2	
必要な力量	顧客開拓、供給者開拓、提案力、価値説明能力、交渉力、					7.2	
プロセス知識	顧客のビジネスプロセスとニーズ、加工手順知識、顧客別見積手順知識					7.1.6	
インフラ	Ridocファイリングシステム、受発注用PC、販売管理ソフト、EDI、DropBox、ファイリング備品					7.1.3	コミュニケーション効率改善
作業環境	事務所とパソコンの顧客情報セキュリティ					7.1.4	顧客及び供給者の情報流出
【 DO 】 実行・管理						8.1	
No.	活動名	手順	責任者	管理項目	関連文書・記録		
1	引合い内容分析	・引き合い時に、顧客見積もり依頼書、図面を入手する ・引き合い書類はRidocファイリングソフトで保管管理する（本社） ・引合い背景の分析（本命か、相見か） ・引合物件に対して、見積納期、材料入手可能性、社内技術・設備、社内負荷状況、協力会社の設備・技術等の面から対応の可否を検討する	営業課長 工場長（技術面・設備負荷状況）	・材料入手可能性 ・社内設備・技術 ・協力設備・技術	・顧客見積依頼書 ・顧客製品図面 ・顧客打合記録	8.2.1 8.2.2 8.2.3	相見要請による機会損失
5	見積後のフォロー	・見積書提出後、顧客へ可否状況を問合わせる（テストカットしたものは必ず確認する） ・他社の価格を聞いて見積価格を修正する	営業課長	・フォローの頻度	・顧客打合記録	8.2.1 8.2.2 8.2.3	失注リスク
	途中省略						
11	出荷［製造P］						
【CHECK 】監視・測定						9.1.1 9.1.2	
見積件数/受注件数/受注額、納期遅れ件数、内製/外製発注高、注残、品目別在庫量、顧客満足度スコア							過剰在庫、過小在庫
【CHECK 】分析・評価						9.1.3	
受注率、納期順守率、内製/外製比率、顧客別/製品毎の粗利益率/額、協力工場別加工能力、顧客別満足要因分析							外注先発注の偏り
【 ACT 】 是正・改善						10.3	
不適合是正処置、顧客ニーズ把握効率化、見積業務の効率化、クイックレスポンス、付加価値比率改善、製品在庫の適正化							営業業務効率改善

に規格の条項番号を付しておくと要求事項との対応が確認できて便利です。また、新規格では事業戦略レベルやプロセスレベルでのリスクと機会の分析、及び、その対策をQMSに組み込むことが強調されています。図3の営業プロセスの例では、右端にプロセスの項目ごとのリスクと機会を記しています。例えば、失注リスクに対しては“見積もり後のフォロー”という活動をプロセスに組み込んでいます。

3）**Checkブロック**は当該ブロックにおいて何を監視・測定するのか、また、そのデータをどんな観点で分析・評価するのかをあらかじめ計画します。そうしないと、いろんなデータを記録しても何も活用されないままになってしまう恐れがあります。基本的には、目標で決めたことに対して、その実績を監視・測定し、目標との差異を分析してプロセスのパフォーマンスを評価するという流れになります。

4）**Actブロック**には、不適合に対する是正処置、及び、分析結果に基づいてプロセスをどんな観点で改善するのかその改善の判断基準をあらかじめ想定しておきます。

おわりに

以上、現状の大半を占める、条項別のマニュアルとは全く異なる業務プロセスベースのマニュアルの作成方法の概略を紹介しました。筆者は、コンサルタントとして10年以上、このような方法でマニュアルを作成していますが、マニュアルのスタイルに対して審査で指摘を受けたことはありません。審査のためではなく、組織の知識を結集した会社の教科書として使えるマニュアル作りにぜひチャレンジしてください。

副田 武夫 （そえだ たけお）
プロセスデザイン研究所 所長。
株式会社デンソー、一般社団法人中部産業連盟を経て2005年より現職。
愛知県春日井市在住。

OHSAS18001 UKAS認証が可能に

OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)の認証について、弊社東京事務所が英国UKAS(United Kingdom Accreditation Service)より認証活動ができるオフィスとして認定されました。従来、弊社海外オフィスを通していたUKAS認定の認証手続きを国内で対応することにより、ISO9001/ISO14001などと同等のよりスムーズでタイムリーな認証が提供できるようになりました。すでに弊社でOHSAS18001認証を取得されているお客様には、UKAS認証への切替えについて別途ご案内させて頂きます。

なお、OHSAS18001は、ISO45001としてISO化が進められており、2016年10月に発行が見込まれています。ISO9001/ISO14001と同様にISO/IEC専門業務用指針 第1部 統合版ISO 補足指針の附属書SLが採用されますので、複数のマネジメント規格を複合(統合)したマネジメントシステムの構築が容易になります。

ご質問・ご不明な点等ありましたら、お気軽にお問合せください。

JAB主催 関係機関向けセミナー情報

2015年7月、JAB主催規格改訂に関わる認証制度関係機関向けの2つのセミナー(ISO9001、ISO14001)が開催されました。参加者は、両セミナーとも、JAB認定を受けている審査機関、ISO等教育研修機関、JAB認定審査員で、規格毎に各2日、計4日にわたって行われたセミナーには、各回100名、計400名が参加し、弊社からも規格毎に認証部門責任者、担当者をはじめ4名ずつ参加しました。

セミナーでは、ISO9001の改訂に関し、以下の9点が強調されました。

1. 附属書SLの適用
2. 組織の状況の理解とQMSの適用範囲の決定
3. プロセスアプローチの適用向上と、それを支援するPDCAサイクルとリスクに基づく考え方
4. リーダーシップの強化
5. 組織の意図した結果、顧客満足の向上、パフォーマンスの強調
6. 明示的な文書化要求の削減
7. 規範的な要求事項の削減
8. サービス業への配慮
9. QMS固有の要求事項の強化、追加、拡大

それぞれのポイントに関しましては、現在各地で実施中のお客様向け規格改訂説明会や、弊社審査員教育の場でも説明し、移行に向け取り組んでおります。

マイナンバー制度開始とISO27001

平成28年からマイナンバー制度が始まります。それに伴い、民間事業者も、従業員などのマイナンバーを取り扱います。対象業務の洗い出し、組織としての以下の準備が必要です。

主な準備:

・マイナンバーを適正に扱う為の社内規定作り
・マイナンバーに対応したシステム開発や改修
・特定個人情報の安全管理措置検討
・社内研修・教育の実施

民間事業者にもマイナンバーを含む個人情報の、法律で定められた適正な取り扱いが求められます。

弊社でも今年は、マイナンバー制度の取り扱いを想定された、社労士事務所や、人材派遣業、その他個人情報の取り扱いが多い組織のISO27001取得事例が急増しています。

審査員の2015年版対応

審査員が2015年版の審査を行う為、弊社審査員の多くが登録しているIRCA(国際審査員登録機構)では、2018年9月1日(規格発行から約3年)までに、約2日間の認定研修の受講、修了を要求(原則)しています。(JRCA:一般財団法人日本規格協会マネジメントシステム審査員評価登録センターでは、条件をクリアし、理解を示す自己学習記録の提出でも可。)

弊社審査員は昨年から実施されている品質・環境などの審査員会議で、複数回(延べ約16時間)のUpgrade Training(移行研修:講師はJABが主催する規格改訂セミナー受講)を受けています。最終的には今年8月～9月にかけて行われた審査員会議のUpgrade Training時の試験修了者(追加修了含む)か又は、その他正規の認定研修修了者から、順次2015年版の審査に対応しています。

審査員会議風景

Q&A

ISO9001・ISO14001規格改訂に関してよく頂くご質問をご紹介いたします。

Question 2015年版への移行審査を受けたいのですが、いつから受けられますか？

Answer QMS、EMSともに2015年版への移行審査は、2016年2月以降を予定しています。それ以前に受審を希望される場合は、東京事務所 営業部までお問い合わせください。

おかげさまで 50 号

いつも本誌をご覧頂きありがとうございます。2003年5月に第1号を発行しました「Intertek News(旧MIC情報通信)」は、翌年から季刊発行として年4回お客様にお届けしてまいりましたが、今号で50号となりました。創刊時1800部の発行部数は、お客様数の増加に伴い現在は1万部を超えております。ここまで継続発行できましたのも、ひとえに皆様方のご支援の賜物であり、これまで誌面にご登場いただきました方々をはじめ、ご協力頂きました皆様に心より感謝申し上げます。今後もお役立て頂ける情報提供に努めてまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

本社（東京都北区）

お客様紹介

図書印刷株式会社 様

（ISO14001：2004 認証登録）

〔取材者〕 審査員 **美濃 英雄** *Hideo Mino*

図書印刷株式会社様は、明治44年の創業から今年で104年目を迎えた総合印刷会社です。主に雑誌・書籍や、カタログ・パンフレット・カレンダー・POP等の製造を行っており、特に学校教科書や漫画単行本製造では国内トップクラスのシェアを誇ります。また、教科書出版の学校図書㈱や、新聞印刷業務を受託している関西図書印刷㈱を傘下に持つなど、様々な事業を通じて文化の向上に貢献されています。

平成15年にISO14001の認証を取得、今年から審査機関をインターテックに変更されており、適用サイトは本社、生産工場（沼津、川越）および各営業所等で、審査工数は8.5人日となりました。審査では、環境に配慮したインキや糊などを利用した環境配慮型印刷の提案や、ゼロエミッション活動、井戸水を活用した冷房設備による省エネ活動などの取組、積極的な改善、推奨事項が提起、対応されている内部監査等を確認することができました。

また、2つの森林認証制度（FSC、PEFC）のCOC認証取得など、森林資源の持続可能な利用にも取組んでおられます。Print The NEXT Page！ 図書印刷株式会社様の次のページが期待されます。

http://www.tosho.co.jp/

連載よみもの

審査員の心理

第17回（環境編）
「法的及びその他の要求事項」

環境主任審査員 **大村 敏夫** *Toshio Omura*

ISO14001を運用している組織の担当者の多くの方は法的要求事項の管理に苦労されていると思います。法律の文書の難解なこと、法律の改正の動きがフォローしきれないことなどが、その理由かと思います。

法律を守らなければならないという義務は、環境管理システムの採用の有無にかかわらず、全ての組織に関わるものです。大きな組織でしたら専門の担当者がいて、官報をチェックしているかもしれませんが、そこまでできる組織は限られています。法律は難しい、しかし、法律に違反していたら知らなかったでは通らないものです。

環境に関する法律について集めた「環境六法」という法令集も発行されていますが、環境六法を最初から読むことはお薦めできません。

環境法についての参考書は幾つか出ています。先ずはこれらの参考書から、該当しそうな法律を選び出すのが良いでしょう。それぞれの法律には、どのような組織に適用されるかが規定されています。該当する業種、活動、設備、物質などがあれば組織に適用される可能性があります。従来から、法律に沿った管理がされている場合もあります。例えば、廃棄物を保管して業者に処理を委託しているはずです。このような管理が、どのような法律で規定されているかを知っておく必要があります。役所への届出や報告した書類などがあれば、その届出等を要求している法律が書式に記載されていることがあります。化学物質を扱っている場合には、MSDS（安全データシート 現在はSDSに移行中）に「15 適用法令」が記載されています。適用される可能性のある法律が挙がりましたら、その適用内容については、参考書や法律の本文を詳細に調べなければなりません。「環境六法」という書籍の名前を挙げましたが、現在では、政府のデーターベースなどで最新版の法文を確認できます。法文だけでなく、各省庁から管轄する法律の解説資料等が出ていますので、それらも参考にすることもできます。

審査員リレーエッセイ㊽

From
奈良県奈良市
時田 正憲
（ときた　まさのり）

Profile
専門分野：ISO9001、ISO14001－金属加工
経　　歴：タツタ電線株式会社他、インターテック審査員（現職）

審査員からのエッセイをお楽しみください。

「××で1位を目指す」

私とISOとの出会いは、ICなどに組み込まれていますボンディングワイヤの開発と事業化に携わったことから顧客に触発され、少数の関係者で1994年に認証取得したことから始まります。その後、事業も軌道に乗ると共にISOの運用も進んで参りました。その原動力として先発メーカから遅れること10年、この溝を埋め、世界の半導体メーカに食い込むために「技術で世界1位を目指す」ことを合言葉に関係者が努力した結果、現在では世界で揺るぎのない位置を占めるに至っています。

インターテックにおきましても「日本で1位の審査機関を目指す」ことを宣言し、私も審査員として心の張り合いを持って審査に臨んでいる次第です。何かで1位を目指すことは、事業発展の原動力となるのは請け合いです。皆様方もぜひ「××で1位を目指す」ことを考えられたら如何でしょうか。

連載「環境とISO14001」㊽

「ウォーター・フットプリント（1）

環境主任審査員　**郷古 宣昭** *Nobuaki Goko*

水資源問題についてはこの季刊誌のvol.24に、地球上で利用可能な水は地下水、湖沼、河川に蓄えられた水0.76％に過ぎないこと、日本は恵まれた水の国だが食糧として海外から輸入する穀物や食肉の生産に使用された水を間接的に消費していることになり(仮想水)、その量は日本人の生活用水の3.7億人分に相当することを述べています。

水資源を取り巻く状況について、昨年発表された第5次IPCC（国連気候変動政府間パネル）報告では21世紀を通して乾燥した亜熱帯のほとんどの地域で表流水と地下水が減少することを予測しています。また、すでに70億人を超えた世界の人口は2050年には90億人を突破すると予想され、それに伴い増大する食糧需要を満たすための灌漑用水や都市に集中する人々の生活用水、まだ成長途上にある新興国の工業用水など、世界の水需要は増大傾向にあることが予想されます。日本の食糧自給率はカロリーベースで39％（2013年度）と改善の傾向はなく、仮想水の消費状況は変わりません。

このような状況下で、自社の製品・商品について、水の使用量の履歴を原材料に遡って調査し、製品・商品に表示する動きがあります。これを**ウォーター・フットプリント**と呼びます。二酸化炭素排出量の履歴を示す**カーボン・フットプリント**に倣って、消費者の商品選択の基準の一つとして位置付ける意図で欧州では商品・製品への表示義務が検討されています。

付表1

ネスレ社のコーヒー1杯当りの工程別の水使用量　　全12ℓ

工　程	原料栽培	包材生産	生産加工	輸送販売	使　用	廃　棄
水使用料	10.08 ℓ	1.44 ℓ	0.24 ℓ	0.12 ℓ	0.12 ℓ	0 ℓ

付表2

「ウォーター・フットプリント・ネットワーク」による計算例

製品・商品	単位	水使用量	製品・商品	単位	水使用量
米	1 kg	3,000 ℓ	鶏卵	1 個	200 ℓ
麦	1 kg	1,350 ℓ	牛乳	1 ℓ	1,000 ℓ
とうもろこし	1 kg	3,400 ℓ	コーヒー	1 杯	140 ℓ
牛肉	1 kg	15,500 ℓ	紅茶	1 杯	30 ℓ
鶏肉	1 kg	3,900 ℓ	木綿シャツ	1 着	2,700 ℓ

付表1はエコプロダクツ展で発表されたネスレ社のコーヒーカップ1杯当たりの工程別水使用の例です。付表2は欧州のNPO「ウォーター・フットプリント・ネットワーク」が試算した標準的なデータです。

一般に農産物を主原料とする製品は原材料の栽培工程が圧倒的に大きくなりますが、ネスレ社の例は原料豆の品種改良、栽培法の開発、加工工程の合理化に取り組んだ成功例を示しています。

このように、「ウォーター・フットプリント」は「カーボン・フットプリント」と並んで、地球環境に対する企業の姿勢を示すものであると同時に世界の水資源問題に関する解決の糸口を提供する手段でもあります。では、「ウォーター・フットプリント」で何がわかるのか、次の機会に説明することとします。

創業以来、職人による手作り一筋

宮川製菓株式会社（ISO9001:2008認証登録）　品質委員長　藤村 政徳

当社は東京・中目黒で1928年創業の飴菓子メーカーです。昔ながらの銅鍋による直火炊き製法で、職人が丁寧に飴を造っています。

2000年頃より私たちのお菓子の世界でも、安心・安全が強く求められるようになりその際にISOと出会い、取得を目指しました。銅鍋を鉛筆に持ち替え、全員で慣れない勉強をし、2年後に無事ISO9001を取得することが出来ました。

その後、弊社の「きなこ飴」がモンドセレクションを受賞しましたし、菓子メーカーでは初めて「東京マイスター（東京都優秀技能者）」を輩出しました。今ではすっかりISO9001の仕組みが自分達の日常に根ざしておりますが、毎年の審査の度に「ISOを取得した頃の謙虚で新鮮な気持ち」を思い返し、気を引き締めております。

地元の小学校の教科書にも弊社工場が取り上げられ、毎年多くの小学生や中学生の見学を引き受けていますが、いつか「飴職人」が憧れの職業になったらうれしいですね。これからも誰にも真似のできない、自分たちだけの製造技術を追求し美味しいお菓子を造り続けていきたいと思います。

きなこ飴

職人の手作業による飴づくり

▶ http://www.miyagawa-conf.co.jp/

豊かな地域創造をめざして

株式会社峰山建設（ISO9001:2008、ISO14001:2004、OHSAS18001:2007認証登録）　管理責任者　廣 秀範

北緯28度19分、東経30度00分に位置し、毎年約2㎜の成長を続ける隆起サンゴ礁の島、喜界島。「クレオパトラアイランド」とも称される自然豊かな美しい島です。外周は、48.6kmととても小さな島ですが、白ゴマ生産日本一を誇り、また、「日本の美しい村百選」にも選ばれております。大空には「南の貴婦人」と言われるオオゴマダラが優雅に舞い、とても穏やかな時間が流れています。弊社は、そんな美しい島の東に位置し、土木建築業を営んで57年の歴史を刻む総合建設会社です。

関連会社には、生コン・アスファルト合材の製造販売、石油類の販売、車海老の養殖業や畜産業、ゴルフ場の管理などがあり、島の雇用枠拡大の一役を担っているものと自負しております。養殖業では、昨年度、水産業では第1号となる、かごしまの農林水産物認証制度（K-GAP）の認証を頂き、高い評価を得ており、また、畜産業では繁殖牛にも取組み、親牛260頭を繁殖し、目標の親牛400頭に向けて確実に業績を伸ばしているところです。

創立以来一日も欠かさず続けてきた朝のラジオ体操や毎月第一土曜日に「エコの日」と定めて行う地域清掃作業は、いろいろなボランティア活動と共に継続していきたい活動の一つです。

弊社では、2003年にISO9001、2008年にISO14001、2012年にOHSAS18001を取得し、更なる品質向上、環境活動への取組、安全意識の高揚と成果が出てきており、顧客満足・工事成績アップにつながっています。

「やる気は実のなる木」の理念のもと、「全社一丸」となって、あらゆる事に挑戦し、成長をし続ける企業でありたいと思います。

砂防ダム建設現場

研修コースのご案内

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

- 内部監査員コース
  9001／14001／18001／27001／39001　（2日間）

開催地 東京・大阪・富山・金沢・新潟・福井・他

対象者
- 品質／環境／労働安全衛生／情報セキュリティ／道路交通安全マネジメントシステムの導入を予定／検討している
- システムをより効果的に運用したい
- 効果的な内部監査を行いたい

審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお薦めです。

- ISO9001：IRCA認定 審査員研修コース　（5日間）
- ISO14001：IRCA認定 移行型審査員研修コース　（3日間）
- OHSAS18001：IRCA認定 移行型審査員研修コース（3日間）

開催地 東京

対象者
- 審査員の目で内部監査を行いたい
- 内部監査グループのリーダーに任命された
- 将来審査員を目指している

受講生からのお便り

ISO14001：2004 内部監査員研修コースを受講して

環境内部監査員コース（2015年6月大阪会場）受講

東洋アルミニウム株式会社 平野工場
品質保証室　義本 真巳

当工場は、粉体めっきの設計と製造を行っております。業務上、化学薬品を多く使用しているため、環境面では大変気を遣います。法令順守は勿論、特に排水は厳しく管理しています。

今回「環境内部監査員研修コース」を受講させていただきました。ISO14001：2004の条項ごとに詳しい説明があり、審査でどのようなことをポイントにすれば良いか分かりやすく教えていただきました。また、課題をする時間もあり、内部監査員としての具体的なイメージをつかむことができ、大変有意義な時間でした。今回の研修で学んだことを熟知するにはまだ時間が必要ですが、少しずつ理解を深めたいと思います。そして内部監査員の役割を果たしつつ、さらに良い工場になるよう有効な環境マネジメントシステム運用を目指して参ります。

大阪事務所移転のお知らせ

この度弊社では、業務拡大に伴い大阪事務所を以下に移転することと致しましたので、ご案内申し上げます。

◇ 新住所　：〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F
◇ 業務開始日：2015年11月16日（月）〔予定〕
◇ 最寄駅　：JR新大阪駅より徒歩10分、地下鉄新大阪駅より徒歩5分

※電話番号、FAX番号ともに変更はございません。
（新事務所は、現事務所ビルより徒歩1分のところです。）

これを機に、尚一層皆様方の信頼にお応えできるよう精励する所存でございます。今後とも何卒変わらぬお引き立ての程よろしくお願い申し上げます。

インターテック・サーティフィケーション株式会社　http://www.moodygroup.co.jp/mic_index.htm
東京事務所 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋Nビル　TEL：(03)3669-7408　FAX：(03)3669-7410　E-mail：info.ba-japan@intertek.com
大阪事務所 〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14 住友生命新大阪北ビル13F　TEL：(06)6150-0571　FAX：(06)6150-0575　E-mail：info.ba-osaka@intertek.com